

令和4年度牛乳残量調査及び牛乳についてのアンケート結果について

津山市教育委員会 保健給食課

1 調査目的

牛乳には成長期の体に欠くことのできない栄養素が豊富に含まれる。健康を維持するために牛乳を飲む事が重要であることを児童生徒に認識させ、牛乳の飲み残し減少及び飲用習慣を継続させる事を目的とする。

2 調査実施期間

令和4年11月中の連続した5日間

3 調査対象学年

小学校6年生及び中学校2年生

4 調査内容

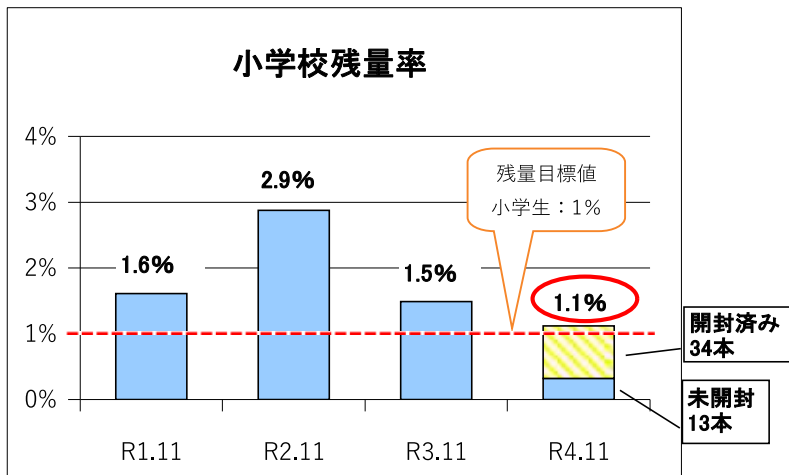
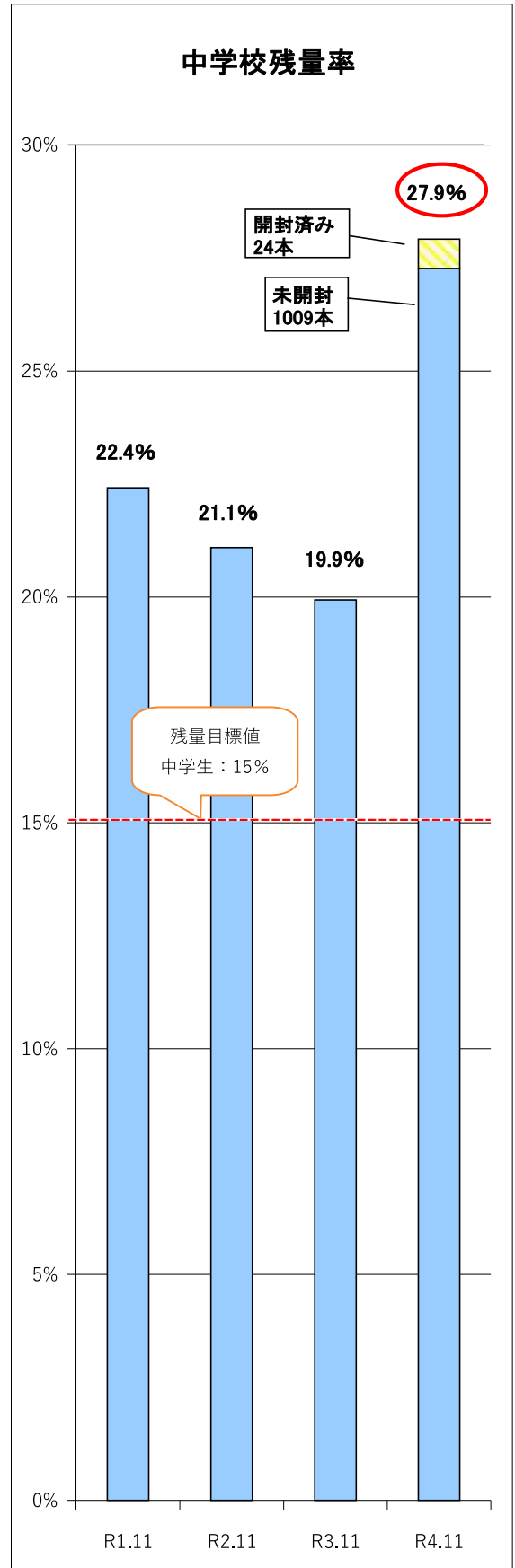
- ・牛乳残量調査【様式1】
(※今年度は未開封と開封済みに分けて調査しています。)
- ・牛乳についてのアンケート【様式2】
- ・牛乳残量調査の取り組みアンケート【様式3】

5 調査結果

【様式1】残量調査結果(5日間)

	小学校		中学校	
	未開封	開封済	未開封	開封済
供給量	4,084本		3,700本	
残量本数	47本		1,033本	
残量率	1.1%		27.9%	
内 訳	未開封	開封済	未開封	開封済
本 数	13本	34本	1,009本	24本
割 合	27.7%	72.3%	97.7%	2.3%

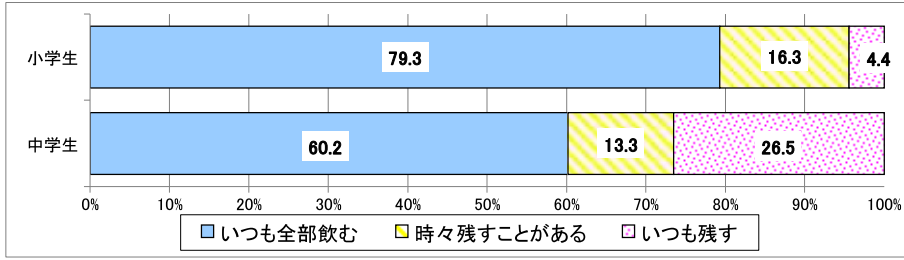
※供給量は欠席者数を差し引いています。



【様式2】牛乳についてのアンケート結果

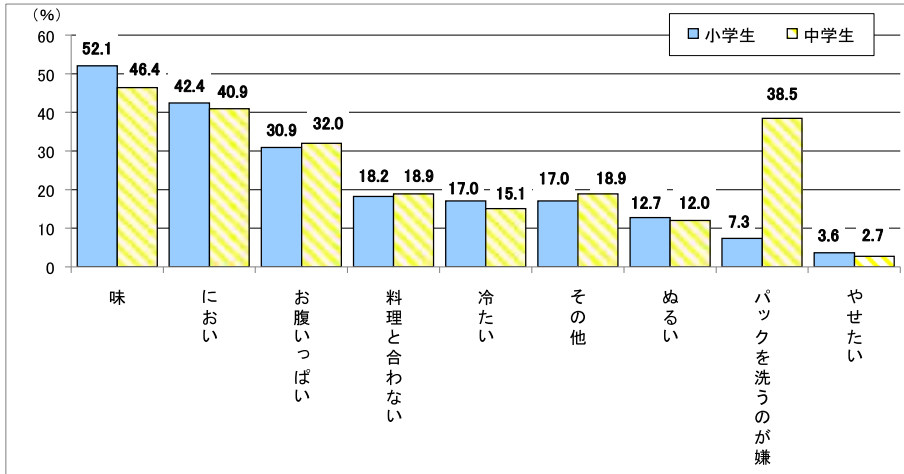
(1) 給食の牛乳は残さず飲んでいきますか。

※n=回答者数



	小学生 n=793	中学生 n=721
いつも全部飲む	79.3%	60.2%
時々残すことがある	16.3%	13.3%
いつも残す	4.4%	26.5%

(2) 給食の牛乳を残す理由は何ですか。(複数回答)



	小学生 n=165	中学生 n=291
味	52.1%	46.4%
におい	42.4%	40.9%
お腹いっぱい	30.9%	32.0%
料理と合わない	18.2%	18.9%
冷たい	17.0%	15.1%
その他	17.0%	18.9%
ぬるい	12.7%	12.0%
パックを洗うのが嫌	7.3%	38.5%
やせたい	3.6%	2.7%



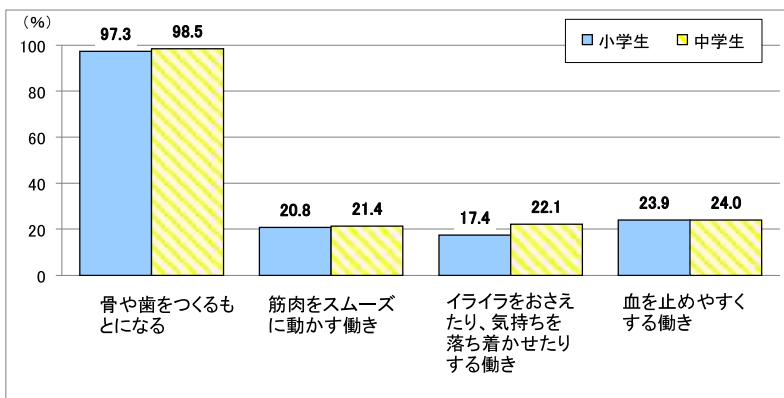
●合わない料理 (人)

料理名	小学生	中学生
お米(白米)	12	27
全部	11	23
麺	3	7
スープ(汁物)	1	3
和食	2	2
カレーライス	1	1
パン	0	2
魚	2	0
中華	1	1
野菜	0	2
おかず	0	1
おでん	0	1
デザート	1	0

●牛乳を飲まない理由【その他】 (人)

理由	小学生	中学生	理由	小学生	中学生
お腹が痛くなる	7	19	肌が荒れる	1	1
お腹が痛いとき	6	0	おかずと食べると気持ち悪い	1	0
飲むのを忘れる	2	0	たまに残したい	1	0
時間が間に合わない	2	9	量が多い	0	5
おいしくない	2	3	なんとなく	0	8
麺類のとき飲めない	1	0			
飲めない	1	1			
体調が悪いとき	1	0			
喉が痛いとき	1	0			
牛から出ていると思うと気持ち悪い	1	0			
ぬるい・冷たすぎるとき	1	0			
体に良いと思わない	1	1			

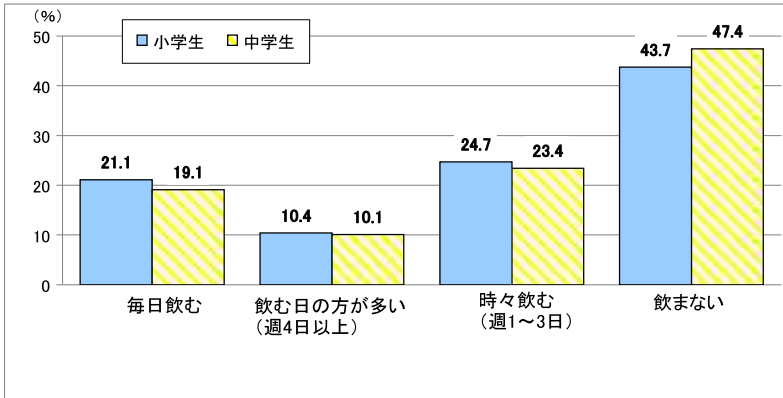
(3) カルシウムの働きとして知っていることは何ですか。(複数回答)



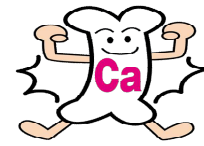
	小学生 n=783	中学生 n=721
骨や歯をつくるものになる	97.3%	98.5%
筋肉をスムーズに動かす	20.8%	21.4%
イライラをおさえ、落ち着かせる	17.4%	22.1%
血を止めやすくする	23.9%	24.0%



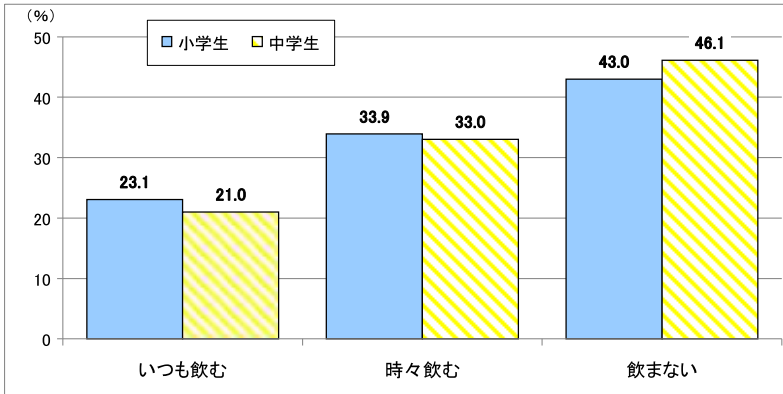
(4) 給食のある日に家で牛乳を飲んでいきますか。



	小学生 n=796	中学生 n=726
毎日飲む	21.1%	19.1%
飲む日の方が多い(週4日以上)	10.4%	10.1%
時々飲む(週1~3日)	24.7%	23.4%
飲まない	43.7%	47.4%



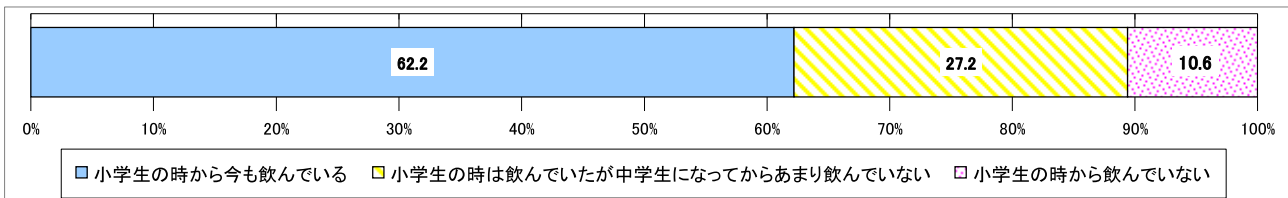
(5) 休日(学校が休みの日)は牛乳を飲んでいきますか。



	小学生 n=796	中学生 n=725
いつも飲む	23.1%	21.0%
時々飲む	33.9%	33.0%
飲まない	43.0%	46.1%

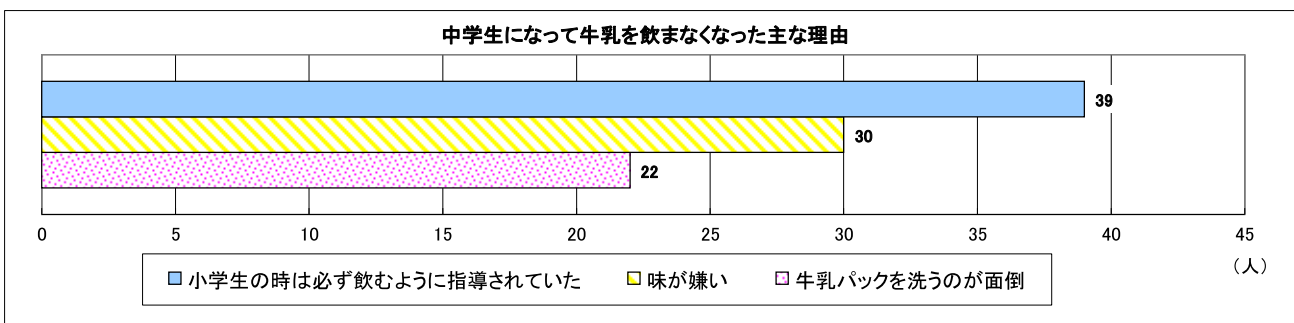
(6) 中学生になると牛乳を飲まなくなる人が増えてきます。中学生になってからの牛乳の摂取状況はどうですか。(中学生のみ)

	n=698
小学生の時から今も飲んでいる	62.2%
小学生の時は飲んでいましたが中学生になってからあまり飲んでいない	27.2%
小学生の時から飲んでいない	10.6%



中学生になってから牛乳をあまり飲んでいない人は中学校全体の27.2%となり、多かつた理由の上位は下記のとおりです。

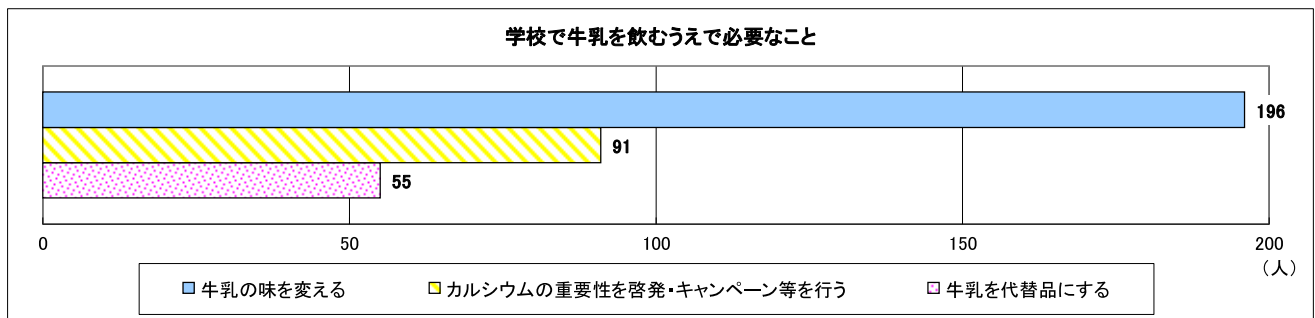
	n=190	
小学生の時は必ず飲むように指導されていた	39人	20.5%
味が嫌い	30人	15.8%
牛乳パックを洗うのが面倒	22人	11.6%



(7)中学生になってもっとみんなに学校で牛乳を飲んでもらおうと思ったら何が必要だと思いますか。(中学生のみ)

多かった意見の上位は下記のとおりです。

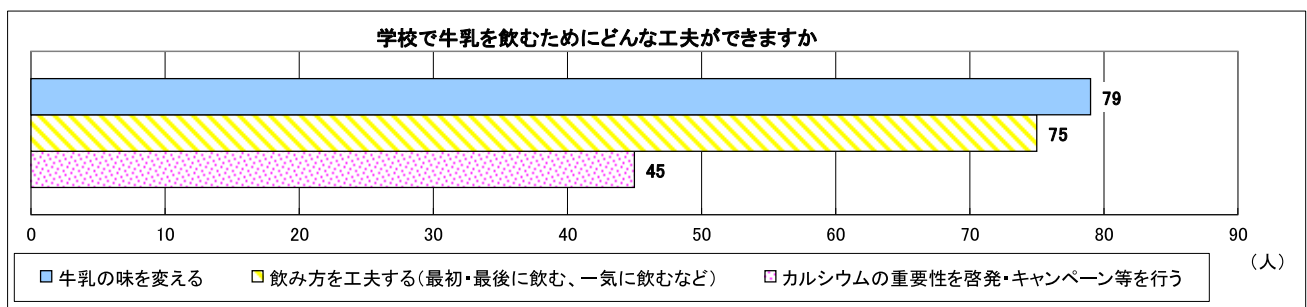
	n=473	
牛乳の味を変える	196人	41.4%
カルシウムの重要性を啓発・キャンペーン等を行う	91人	19.2%
牛乳を代替品にする	55人	11.6%



(8)学校で牛乳を飲むためにどんな工夫をしていますか。またどんな工夫ができますか。(中学生のみ)

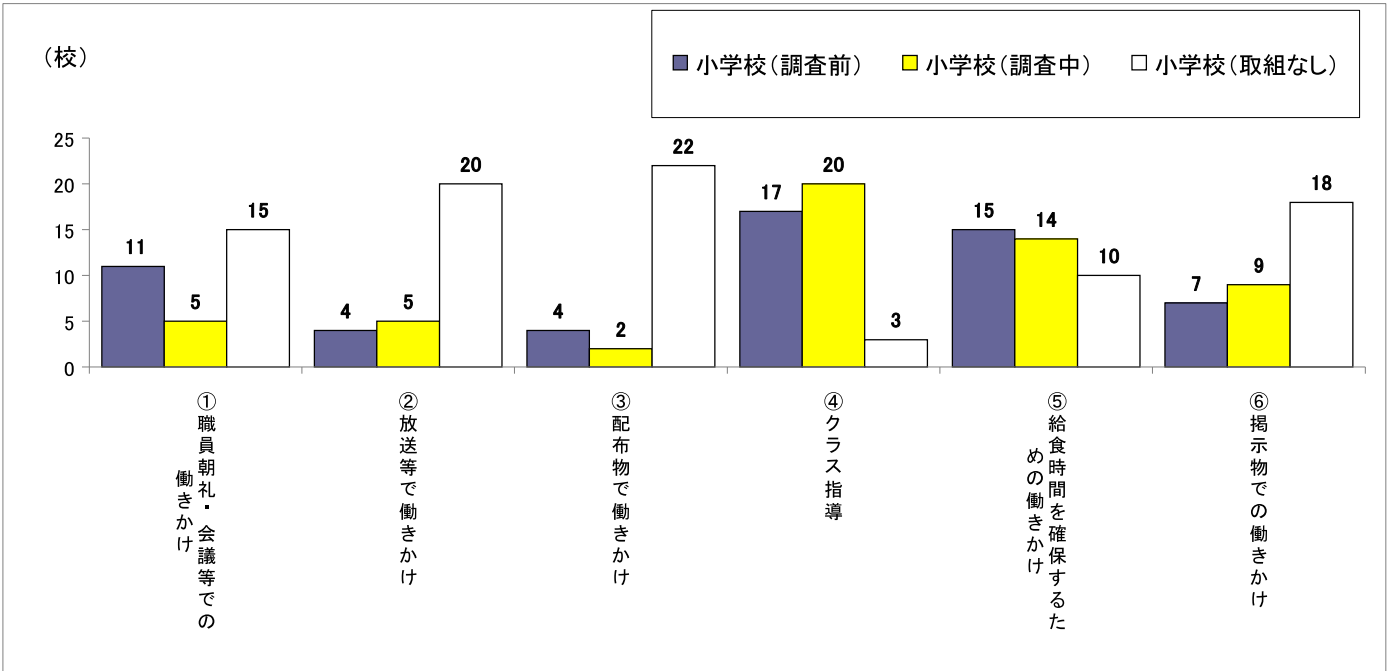
多かった意見の上位は下記のとおりです。

	n=291	
牛乳の味を変える	79人	27.1%
飲み方を工夫する(最初・最後に飲む、一気に飲むなど)	75人	25.8%
カルシウムの重要性を啓発・キャンペーン等を行う	45人	15.5%

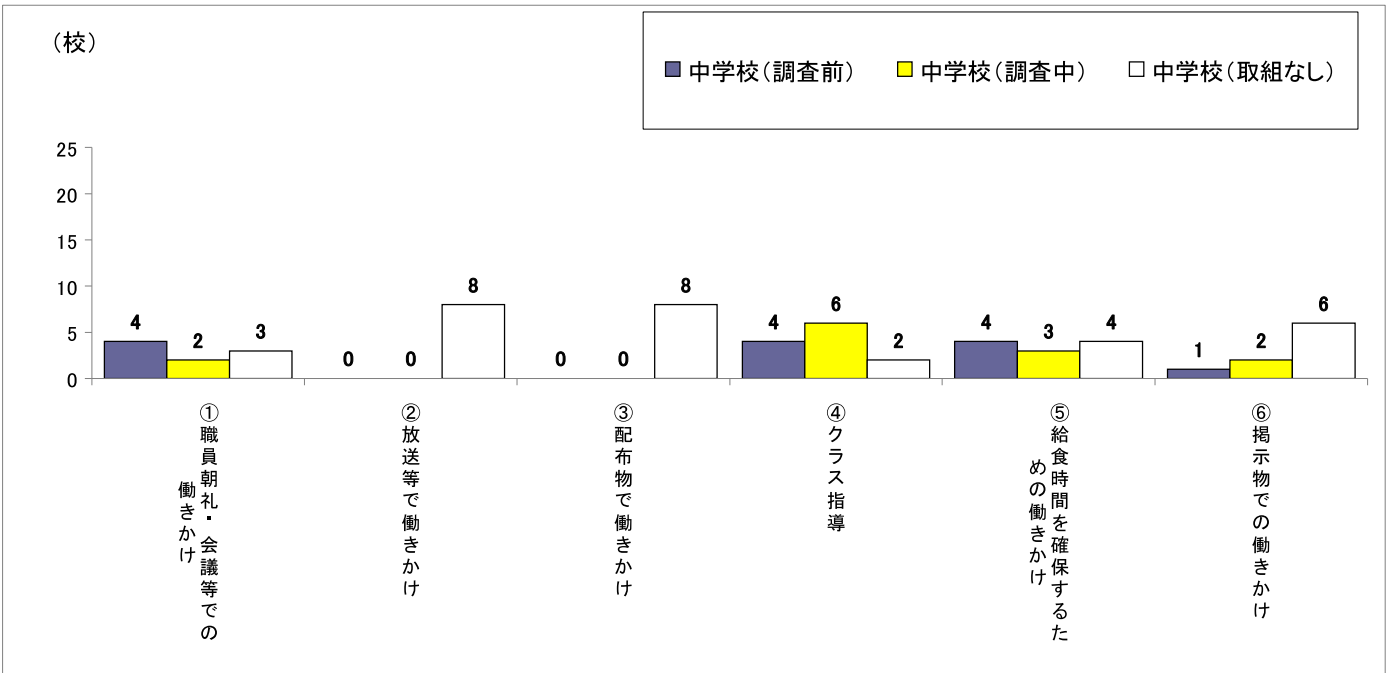


【様式3】牛乳残量減少のための学校での働きかけ
 <小学校>

(複数回答)



<中学校>



6 調査結果・考察

①給食の牛乳残量調査について

牛乳の残量率は、小学校1.1%、中学校27.9%で、小学校は昨年度より0.4%減少し目標値の1.0%に近づいているが、中学校では昨年度に比べ8.0%も増加している。

また、残量率が0%の学校は小学校で22校、中学校は0校であり、最も残量率が高い学校は小学校が2.2%、中学校が42.7%であった。

今年度初めてパックの開封状況の調査を行った。残量本数の内訳は、小学校では残った牛乳47本のうち未開封が13本(27.7%)で開封済みが34本(72.3%)、中学校では残った牛乳1,033本のうち未開封が1,009本(97.7%)で開封済みが24本(2.3%)であった。小学校は全量は飲めなくても、開封して少しでも飲んでみようという意識が見られるが、中学校では、ほとんどが未開封で少しでも飲んでみようという意識が低い状況である。未開封の児童生徒に対しては、まずは開封して少量でよいので飲んでみようという声かけをするなどの指導が必要であると考えられる。

牛乳や乳製品は、アレルギー等も関わってくるため、指導等については配慮が必要であるが、成長期に必要なカルシウムの補給のために、給食時に牛乳が提供されている事を児童生徒が十分に理解し、行動に結びつけていくことが大切である。

自分自身の1日に必要なカルシウムが摂取できる食生活を身につけてもらえるよう、継続的な指導が必要である。

②牛乳についてのアンケート結果

(1)牛乳の飲用状況

アンケートで牛乳を「いつも全部飲む」と答えた小学生は79.3%、中学生は60.2%である。小学生は昨年度より3%減少しているが、中学生は3.6%増加している。

今年度、中学校において、スポーツをする際に必要な栄養を摂取するための献立『勝負めし』の授業を行った結果、自ら牛乳を飲むという意識を持つ中学生が増加したのではないかと考えられるが、残量本数の減少に結びついていない状況である。牛乳を残す理由は、「味」と答えた小学生は52.1%、中学生は46.4%で、「におい」と答えた小学生は42.4%、中学生は40.9%と、ともに上位2位を占めて多くなっている。これらのことから、牛乳が残る要因は小学生・中学生ともに嗜好的なものであると考えられる。次いで、小学生は「お腹がいっぱい」が30.9%、中学生は「パックを洗うのが嫌」が38.5%という理由であるが、小学生の「パックを洗うのが嫌」という回答は7.3%と中学生に比べて低く、パックの洗浄に関しては大きな差が出ている。今後は、牛乳パックの再資源化の大切さについても伝えていく必要がある。

また、中学生になると牛乳を飲まなくなる生徒が多いため、中学生になってからの牛乳の摂取状況について調査をおこなったところ、「小学生の時から今も飲んでいいる」は62.2%、「小学生の時は飲んでいいたが中学生になってからあまり飲んでいない」は27.2%、「小学生の時から飲んでいない」は10.6%という結果であった。

中学生になってから「あまり飲んでいない」理由で最も多かったのは、「小学生の時は必ず飲むように指導されていた」で、20.5%だったことから、小学生だけでなく中学生についても学校での声かけが必要であると考えられる。

また、「中学生になってももっとみんなに学校で牛乳を飲んでもらおうと思ったら何が必要だと思いますか」の設問では、「牛乳の味を変える」が41.4%と最も多かった。「学校で牛乳を飲むためにどんな工夫が出来ますか(していますか)」の設問でも同様に、「牛乳の味を変える」が27.1%と最も多くなっており、牛乳を提供する側の工夫も必要と考えられる。

(2)カルシウムの働きについて

「カルシウムの働きとして知っていることは何か」の設問に対して、「骨や歯をつくるもとになる」と答えた小学生は97.3%、中学生は98.5%と、ほとんどの児童生徒が理解している。一方で、筋肉をスムーズに動かす働きや、血を止めやすくする働き、イライラをおさえたり、気持ちを落ち着かせる働きを知っている児童生徒はいずれも20%前後である。様々なカルシウムの働きを知ることで、牛乳摂取の必要性や自身の成長、健康について考えることができるよう啓発資料や動画の配信等を通じて継続して伝えていく必要がある。

(3)給食以外の牛乳飲用について

「給食のある日に家で牛乳を飲んでいいますか」の設問には、「毎日飲む」と答えた小学生は21.1%で昨年に比べ1.2%増加し、中学生は19.1%で、4.3%減少している。「給食のない日に家で牛乳を飲んでいいますか」の設問に、「飲まない」と答えた小学生は43.0%、中学生は46.1%で、昨年と比べると小学生が1.6%、中学生が3.7%増加している。好き嫌いや家庭の環境等、様々な要因により牛乳を飲まない状況があるが、1日に必要なカルシウムを摂取できるように、給食でも、家庭でも飲むとする意識づけをしていく必要がある。

【まとめ】

「カルシウム」は、児童生徒の成長や健康の保持増進に大切な役割を担っているが、意識していなければ1日に必要な量を日常の食事から摂取することは容易でないため、学校給食では、カルシウムを効率よく摂取できる牛乳を提供している。

アンケート結果から、給食でも家庭でも牛乳を全く飲まない児童生徒が4割以上おり、「日本人の食事摂取基準（厚生労働省）」のカルシウムの推奨量に達していないことが懸念される。家庭へも牛乳、乳製品をはじめ、成長期に必要なカルシウムを多く含む食品を積極的に摂取するよう啓発する必要がある。

また、児童生徒への働きかけとしては、食生活や生活習慣についての指導や啓発活動を行い、給食の牛乳を飲むよう引き続き指導が必要である。特に中学生は、学校での声かけが重要であると考えられる。また、牛乳を飲むと精神を安定させ気持ちを落ち着かせる作用についても伝え、自主的に飲むとする意識づけや雰囲気作りが大切であるとする。

津山市では、今年度、「津山市食品ロス削減推進計画」を策定しており、児童生徒に対して給食残食や牛乳残量などの食品ロスの削減についても働きかけを行う必要があると考えられるため、引き続き、学校及び家庭との連携して取り組んでいく必要がある。

